

たかつき市民活動ネットワーク NEWS

2007.6.30 第17号

発行：たかつき市民活動ネットワーク

〒569-0078 高槻市大手町6-24

TEL/FAX: 072-674-1959

2007年度通常総会を開催しました！

5月12日
(土) 午後
1時30分よ
り、高槻市



総合市民交流センターにおいて、2007年度通常総会
が開催されました。

正会員の総数67名(個人:44、団体:23)の中、委任
状25を含めて、59名の方が出席されました。

議長には松浦正徳さんが選出され、2006年度の事
業報告、収支決算報告につづき、2007年度の事業計
画、収支予算等が審議され、理事会提案通り全会一致
で承認されました。

2007年度は、創立5周年の節目の年にあたり、「市民
参加」と「市民協働」をキーワードに、主として次の事業
に取り組みます。

(1) 市民活動団体の協働促進事業

「第3回NPO協働フェスタ」実行委員会への積極
的参画

市民活動団体間の協働事業の支援

市民活動団体の自立支援

(2) 市民活動への参加を促進する事業

市民参加による「高槻市民が知りたい100項目」の
改訂版の発刊

「たかつきルネッサンス塾」の内容拡充

団塊世代の市民活動への参加促進活動

(3) 市民活動団体と行政との協働促進事業

冊子「高槻市における協働のあゆみ」の発行
と活用

協働活性化事業制度の検討と政策提言

(4) 創立5周年記念事業

記念冊子「たかつき市民活動ネットワークの

あゆみ」の編纂と発行

記念シンポジウム

理事長 鍵谷 誠一

5年～10年先を見据えて、課題は何か、何を
なすべきかを、ともに考える機会とします。

役員を選任について

次期役員は、役員選挙管理委員会の提案
どおり全会一致で次の方が選任されました。

任期は2009年度通常総会までの2年間。

理事(9名)：飯村六合夫、鍵谷誠一、日比
徹、堀野亘求、山下征紀、(以上留任5名)

去来川 裕、田中恵子、西村逸郎、宮地 剛
(以上新任4名)

監事(2名)：境 毅、三俣玲子(以上新任2名)

第1回理事会で役員を担当を決定しました

理 事 長：鍵谷 誠一

副 理 事 長：山下 征紀

事 務 局 長：飯村六合夫

事務局長代行：日比 徹

(1) 市民活動団体間の協働促進事業：

宮地 剛、飯村六合夫、去来川 裕、
鍵谷誠一、田中恵子、

(2) 市民活動への参加促進事業：

山下征紀、日比 徹

(3) 市民活動団体と行政の協働促進事業：

鍵谷誠一

(4) 5周年記念事業：

西村逸郎、鍵谷誠一

市民公益活動サポートセンター管理運営委員 会正会員選任について

2007年度の管理運営委員会正会員3名と
して、理事会の提案通り以下の方が選任さ
れました。 鍵谷誠一、日比 徹、山下征紀

第2部および第3部

総会に引き続き、「バリアフリー楽器ヘルマ
ンハーブの演奏と解説」「市民活動講座：お
金の流れが社会を変える！」を開催しました。

< 第 2 部 > ヘルマンハーブの演奏と解説

日本ヘルマンハーブ協会 理事長の梶原千里さんによる楽しい演奏会が催されました。

ドイツで生まれたヘルマンハーブは、ヘルマン氏がダウン症の息子さんの為に発明したバリアフリーの楽器です。幾年もの研究の末、完成させたもので何よりも素晴らしいのは、芸術的で扱い易いフォームと素晴らしい音色です。

梶原千里さんは、ドイツ滞在の折この楽器と出逢った時の感激と、その情景を情感たっぷりに語って下さいました。この楽器を



世界に広めたいという思いと平和を願う気持ちが会場に溢れました。

解説の後、梶原さんが見事な演奏を披露され飛び入りで楽器に触れることも初めてという山下さんと司馬田さんが参加されて見事に演奏しました。梶原さんとの楽しい3重奏や、伴奏に合わせて参加者全員で歌った“上を向いて歩こう”など和やかなムード

に参加者の皆さんも楽しみ感激したひと時でした。

(文責:松浦)

サポートセンター管理運営委員会総会報告 担当理事 日比 徹

2007年6月19日(土曜日)、サポートセンター管理運営委員会総会が正会員42名の出席(内委任17名)で開催された。

たかつき市民活動ネットワークは2009年度総会まで正会員3名枠を有し、鍵谷理事長、山下副理事長、日比事務局長代行の3名が出席し、2006年度活動事業報告、決算報告と2007年度事業計画案、予算案と役員、常任委員等の選出についての審議をした。サポートセンターの会員状況(4月30日現在)は、管理運営に関わる正会員は45団体、利用のみの利用

団体は17団体が登録されている。事業内容と予算(補助金)については一昨年と同じで大きな変化はない。推薦委員会から役員・会計監査候補が一括推薦され、委員長:白石盛彬氏以下6名が一括承認された。常任委員は役員推薦候補5名と会員推薦候補立候補者3名の一括選任がなされ、当会からは担当理事日比徹を推薦して常任委員に選任された。

事務局業務と体制



担当理事 日比 徹

5月から新事務所を開設し、以下の項目を重点的に遂行に努力します。

次の3委員会を設置で情報発信機能を拡充し効率的業務遂行を可能にしました。

- (1) 会報編集委員会
- (2) IT活用委員会
- (3) HP編集委員会

各委員会と業務の協働化を計りながら事務所管理業務を充実する。

- (1) 郵便物・電話・ファックス等の一般事務管理
- (2) 各事業グループの事務サポート(3) 会員の拡充

と管理(4) 補助金等の情報収集発信と管理(5) 会計処理管理(6) 団体・行政・企業等の他機関の活動に対する調査と管理(7) 報告書類等の作成と管理(8) 発行冊子の作成と管理(9) 役員会に提言する調査作業(10) その他、課題・問題の調査作業、NPO 組織化検討、若い会員の参加促進等々です。

事務局スタッフは現在5名でスケジュール表に沿って当番をしています。会員のみなさんの参加をお待ちしています。

< 各事業分野の実行計画 >

団体間の協働促進事業

担当理事 鍵谷誠一

(1) 「第3回NPO協働フェスタ」実行委員会への積極的参画

6月18日に企画会議が立ち上がり、12月1日(土)に生涯学習センター展示ホールにおいて開催することになりました。8月7日に説明会ならびに第1回実行委員会を開催します。多くの団体の参画をお願いします。

(2) 市民活動団体間の協働事業の支援

次の3つの事業を進めます。市民活動団体のデータベース作成。 団体間のマッチング支援。 協働事業の立上げ支援。

(3) 市民活動団体の自立支援

会員が自主的に、本会の目的・趣旨に沿って、新しい市民活動を立ち上げる際には、情報受発信の手伝いや会合の場の提供などの支援を行いますので事務局にご相談してください。

市民の参加促進事業

担当理事 山下征紀

本年度は以下の3つを進めます。「市民が知りたい100項目」の改訂。データが古くなったこと、項目内容も、より「市民性」のあるものに差し替えます。ルネッサンス塾の開催。昨年度に続き6~7回実施し、との相乗効果を目指します。また、新しい拠点での仲間作りを狙った「わいわい・ルネッサンス・サロン(仮称)」をやってみます。 団塊・シニア世代の参加プログラム開発。この世代を対象に生活設計講座、高齢者雇用促進セミナーの2つのプロジェクトを立ち上げます。

これらの5つのチーム活動は、特定会員のものでなく、皆さんに開かれています。リーダー、サブリーダーは決めましたが参加型のもので、月2回位の活動でやっていきます。興味のあるチームを選択し、ご参加ください。希望者は7月10日までに山下(TEL682-8155)へ。

団体と行政の協働促進事業

担当理事 鍵谷誠一

(1) 冊子「高槻市における協働のあゆみ」の発行と活用

06年度に作成した「高槻市における協働のあゆみ~NPOと行政との協働促進に向けて~」(骨子案)に沿って、冊子を編集し、発行し、市民と行政の協働についての提言・啓発などに活用します。

次の編集方針で進めます。正確な活動の事実経過と成果を記録する。今後に対する課題と提言をとりまとめる。行政職員や団体関係者の教育・啓発資料として活用しやすいように、要約をつける。

(2) 協働活性化事業制度の検討と政策提言

上記の冊子「高槻市における協働のあゆみ」に基づき、モデル事業から本来事業へ発展させるための制度について検討し、高槻市、市民公益活動団体等に提案します。

創立5周年記念事業

担当理事 西村逸郎

(1) 記念冊子「たかつき市民活動ネットワークのあゆみ」の編纂と発行

5周年を記念して、これまでの歩みを記録すると共に、新たに参加し支援していただく方々をはじめ、多くの市民の皆様には本会の働きを理解していただく資料とします。

次の編集方針で進めます。正確な活動の事実経過と成果を記録する。活動を通じて掌握した今後に対する課題をとりまとめる。わかりやすく興味をもって読んでもらえるように配慮する。

(2) 記念シンポジウム

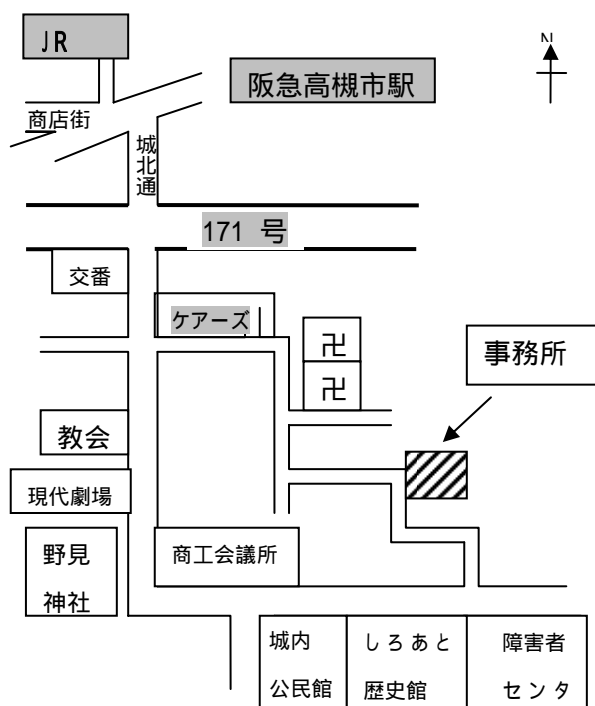
5年~10年先を見据えた市民活動によって、よりよい提言をし、改善策を具体化していくことが求められています。私たちが対応しなければならない課題は何か、そして「たかつき市民活動ネットワーク」がどのような働きをすべきかについて、ともに考える機会として年内をめどにシンポジウムを開催する予定です。

念願の事務所を開設しました！ 担当理事 日比 徹

事務処理管理・情報受発信に必需品である Vista 搭載 office 2007 パソコンを購入しました。また、5月初めに、団体会員「NPO 法人幸せな家庭環境をつくる会」の倉本さん(成喜建設社長)のご厚意により多くの備品の寄贈と事務所の大工補修をして頂きました。また、6月5日には、大阪ボラ協仲介による住友生命の事務備品(キャビネット2台、両開きロッカー、机、椅子4台、書庫)の寄贈を受け事務所が充実しました。備品搬入に際し、倉本社長よりトラックをお借りしました。多くのみなさんのご好意とご協力に支えられ、事務所らしくなってきました。有難うございました。本会の活動・事業への会員のみなさんの参加をお待ちしております。

《アクセスと事務所外観》

住所 ; 〒569-0078 高槻市大手町 6-24 「市民活動センター みんなの家」
電話 ; TEL/FAX 072-674-1959 メールアドレス ; 準備中



定例理事会(1回/月)

原則 毎月第2火曜日 18:30~21:00 場所: 「市民活動センター みんなの家」

第3回理事会 7/10(火) 18:30~21:00

「第3回たかつきNPO協働フェスタ」の開催

07年12月1日(土) at.総合センター1階展示ホール

ネットワーク活動状況(07年4月~6月)

4月 第13回および第14回理事会

5月 2007年度通常総会、第1回理事会

6月 第2回理事会

編集後記: 国会運営や地方行政が、常識や道理から逸脱した社会になりつつあるようで怖い。そんな中、せめて、私たちの「ネットワーク」は健全な道理をもち、あるべき姿を維持していきたいものです。【禄】

＜第3部＞市民活動講座(要旨)

「お金の流れが社会を変える！」

講師 近畿ろうきん地域共生推進部
部長 法橋 聡さん



[1] NPOの課題と可能性

1 . NPOの登場

市場主義という暴風雨がふいているので、ワーキングプアとか、引きこもりとかの色々な課題が頻発している。社会の底がどこか抜けて行く様な時代の中で、自分達でどう、それぞれ支えあう仕組みを作っていくのが今の一番の課題。その中で新しい公共の担い手としてNPOが登場した。

社会を支える仕組みとしては、公助・自助・共助があるが、公助の仕組みは急速にしぼんでいる。自助の世界もしぼんでいる中では共助の仕組みが必要な時代になっている。さらに、仲間内だけでは無く共助から共生と言う、パブリックな所を担っていく様なもしくはそういうのをつないでいく様な仕組みがどうしてもいる。

NPOは、課題ごとのタテ割りであった市民自身を横串でつなぐ役割をもっている。しかし、補助金なり助成制度の枠組みが変えられない中で、NPOが一杯動いて来ると市民間の戦争を誘発する。新しい公共への参加の仕組みを創出することが求められている。

2 . NPOの課題

NPOは自分が深堀りする課題にこだわりを持つため、どうしても課題縦割りに行ってしまいかねない。世の中の課題はつながっているからその周辺の課題も見えていくとか、環境変化に負けないアンテナを出すことが大切。地域の支援センターは、色々な部局に窓口を持つ必要がある。また、出入り自由マネジメントで、周辺にスキルを持った応援団を創ることや、日々の営みの蓄積を内部資源化し、事業開発につなげる視点が必要。融資する側も、そのNPOが次の世代へ移して行く様な営みがあるか、トータルな事業プラン全体を通した戦略があるかを重視している。

3 . 多様なコラボレーション

生活協同組合、ろうきん、全労済、労働組合、ワーカーズコレクティブとか組織形態は様々だが、協同の理念を持って地域で活動している団体が沢山ある。NPOで大事な事は様々な事業を通したコラボレーションだと思う。行政に対してアプローチする時にも、NPOが色々なネットワークを地域で組んでいるかどうかということがかなり大きい。

企業セクターも変化して来ている。企業はマーケットで生きているから、市民・消費者がどっちに動くかで企業は変わる。労働基準も含めたCSRの要素が、下請け・孫受け含めて全部の企業まで降りて行く時代になっている。地域の零細企業は、自分が生きる地域を豊かにする所に自分が登場しないと生き残れなくなって来る。地域の資源としての企業の営みみたいなものが大きく動くから、そことNPOが繋がる事だって有り得る。

ヨーロッパの方では社会的経済とか連帯経済みたいな動きがかなりある。世界社会フォーラムの動きなど、NPOは世界的な動きがどうなっているかに関心をもつことが大事と思う。

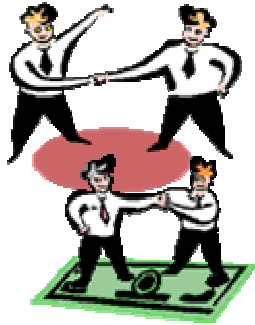
4 . NPOの可能性

行政が対応している公共領域と言うのは社会課題の中の一部であり、行政が対応しきれていない公共も沢山ある。税とか選挙も含めた意思表示を通して市民が自治体に公共の管理を委託するのが市民と行政との関係。新しい公共への新しい参加の仕組みとして、NPOの回路を通して市民が公共・公益の課題に係わるきっかけをNPOが提供するという構図になっていく。地縁・血縁・既得権など一杯あってなかなか地域は動かない。そこを動かして行く風を吹かすのはやっぱりNPOだろう。多様な生き方のチャンスがNPOに沢山有る。地域を底から元気にして行くのはNPOじゃあないかと思う。

[2] お金の流れが社会を変える

1. 「社会づくりの道具立て」として、お金の流れを見る

お金が社会の在り様に大きく係わっていて、そこがどう動くかで社会も変わる。自分らの暮らしを良くしようとしたお金が結果として自分らの首を絞めるお金の流れになっているケースも有る。お金の流れは、社会をどう構成して行くかについてかなり影響力がある。預けた後のお金の使い道がなかなか見えないのが間接金融という枠組み。お金という物は、手を離れてしまえば自分の意思と違う形でどんどん使われて行く。



地域の財を地域にもう一辺戻し入れて地域として回して行くお金の回し方があれば、そこをコアにして人の流れとか財の流れとかも出て来たりする。人なり財の流れが地域で豊かに回ろうと思えば、その裏打ちであるお金の流れがしっかり回っているかどうかは大事な所。単発で助成金を取れたというような勝負ばかりやるのではなく、一步超えて地域が地域として支える仕組みを自分達でどう形成出来るかが大事。

2. お金に意思を持たせよう

こんな社会でありたいと自分のお金を通して具体的に表現する若い方々の動きが、市民金融として沢山生まれている。東京の方では、エコ貯金キャンペーンと言う、社会参画の一つの運動として、自分が預けたお金を、ちゃんと地域に循環させようとしている金融機関に預け換えようという運動をやっている。

3. 地域を支える融資制度の事例

近畿労金と京都労働者福祉協議会と京都 NPO センターの3者が連携をして市民活動提携融資制度を作った。NPOにとって立上げ時の資金調達が一番しんどい。京都労福協が 1000 万を労金に預金し、労金はそれを担保としてとらえ、京都 NPO センターと繋がって京都府下の NPO に立上げ時も含めた融資制度を作った。融資については労金の審査の前に、京都 NPO センターの所で公益性について審査(サジェッション)をやり、NPO の目線を入れ

た資金循環の仕組みを作った。地域の色々な資源に金融機関を介在させることによって地域を支える仕組みとして作る事が出来る一つの事例。

[3] NPOを支える地域の仕組みづくり

1. 地域を支えるもの

地域こそがイノベーションの現場であるし、その地域固有の資源を使って地域を変えていくことによって社会のデザインそのものにも影響を与えていく事が大事。

地域を支えるものとしては、たかつき市民活動ネットワークのようなラウンドテーブル的なものが、NPO だけではなくて多様な人々を繋いで行くことが必要。行政は市民参加型とよく言うが、逆に市民がテーブルを作って行政参加型にして行く事も必要だろうし、市民基金も含めて地域に色々な仕組みを作っていくことも必要。

2. 地域の民間型「支援センター」の役割はとても大きい

地域の民間の支援センターの役割は大きい。地域は疲弊しているし、忙しいし、資源は乏しいと課題満席の中では、特に民間の支援センターがどう営み、生き方をするかによって地域の姿が変わる。支援センターは、子供の課題、障害者の課題、介護の課題とか縦割りの課題のどれかに特化しては活動出来ない。しかし、課題を横繋ぎする為にこういう場があるわけだから、プロモートの仕方として、地域を一番動かせる課題にこの資源を集中投下して具体的に制度化を実現するやり方もある。社会に取り残された課題をほんとに制度の所に上げて行く様な営みに NPO がどう力を出せるかと言う事が一番存在感を発揮できることと思う。市民が集めたお金を NPO に貸すのは大変難しいけれども、市民が集めたお金を NPO として地域のファンドを形成していくような営みは大事と思う。支援センターは、地域課題を社会化し、制度化する推進力となる役割を持っている。(文責:鍵谷)

